

報道関係者 各位

イヌはヒトの笑顔を見分ける

コミュニケーションにおいて重要な表情弁別は、イヌでも可能である。

イヌは進化の過程でヒトと同じようなコミュニケーション・スキルを獲得したと言われている。本研究は、ヒト同士のコミュニケーションにおいて非常に重要である表情弁別がイヌでも可能であることを明らかにした。

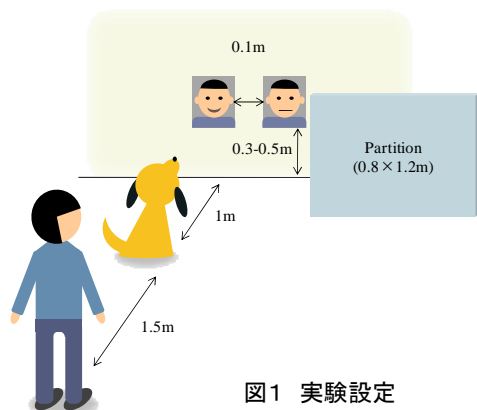


図1 実験設定



図2 実験風景

【発表内容】

イヌがオオカミから分岐し、ヒトとこれほどまでに密接な関係を結ぶことができるようになった経緯については、いまだ明らかになっていません。しかし、イヌが進化の過程でヒトに似たコミュニケーション・スキルを獲得してきたことは既に多くの研究で示されており、その能力が現在のようなヒトとの共生関係を可能にした大きな要因であると考えられています。また、そのようなイヌの社会的認知能力は、ヒトの近縁種であるチンパンジーやイヌの祖先のオオカミよりも優れている点があることがわかっており、イヌの進化過程を解明する鍵として非常に重要な研究対象となっています。

今回我々は、イヌの持つヒトに似たコミュニケーション・スキルの一環として、ヒト同士のコミュニケーションにおいて非常に重要であるヒトの表情弁別がイヌでも可能かどうかを調査し、イヌがヒトの笑顔と無表情を弁別できることを明らかにしました。ヒトの近縁であり顔構造も極めて類似している霊長類においても、ヒトの表情弁別は部分的に困難であると言われていたのですが、本研究によって、イヌがヒト社会において、ヒトの表情を認識しながらより調和的に行動している可能性が示されました。これはヒトとイヌとの共生関係構築の理解のみならず、ヒト-ヒト間での円滑な視覚的コミュニケーション成立のメカニズム解明のモデルとしても非常に高い価値が期待されます。

【発表者】

特任助教 永澤 美保 (麻布大学 獣医学部) / 大学院修了者 村井 謙介 (麻布大学 大学院獣医学研究科)

講師 茂木 一考 (麻布大学 獣医学部) / 教授 菊水 健史 (麻布大学 獣医学部 伴侶動物学研究室)

【発表媒体】

雑誌: Animal Cognition

著者: Miho Nagasawa, Kensuke Murai, Kazutaka Mogi, and Takefumi Kikusui

題名: Dogs can discriminate human smiling faces from blank expressions

◎本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

麻布大学 総務部 経営企画課 (入試・広報) 栗村 TEL:042-769-2032 (直通)

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71 FAX:042-850-2505 E-mail:koho@azabu-u.ac.jp

※本リリースは、本学 WEB サイト <http://www.azabu-u.ac.jp/>でも御確認いただけます。

〈取材申込書〉

下記の事項を御記入の上、取材希望日の2日前までにFAXにて御連絡ください。

取材希望日① 平成 年 月 日 () : ~ :

取材希望日② 平成 年 月 日 () : ~ :

取材希望日③ 平成 年 月 日 () : ~ :

貴社名 _____

媒体名 _____

部署・役職名 _____

取材代表者名 _____ 他 () 人

撮影の有無 無し ・ あり (写真 ・ 映像)

御連絡先 TEL () _____

FAX () _____

〒 _____
所在地 _____

〈取材について〉

- 取材当日は、自社の腕章又は本学経営企画課（入試・広報）でお渡しする本学の腕章を着用してください。
- 映像の場合は放映日、記事掲載の場合は掲載日を事前に御連絡ください。
なお、掲載紙・誌の送付を併せてお願いいたします。

〈申込先〉

FAX : 042-850-2505

麻布大学 総務部 経営企画課（入試・広報）

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71 TEL : 042-769-2032

URL : <http://www.azabu-u.ac.jp> E-mail : koho@azabu-u.ac.jp